

地域支援部通信

令和5年10月31日 No. 2
青森県立弘前第一養護学校
地域支援部

暑かった夏が過ぎ、秋が深まってきましたね。

さて、第2号では、8月2日（水）に教育関係者対象に本校で実施した、教育相談に関する専門性向上研修会について紹介します。

テーマ：子どもたち一人一人が“楽しい”と感じる身体活動について

講師：弘前大学教育学部学校教育講座

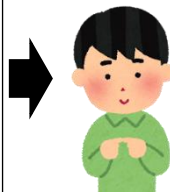
教授 増田 貴人 氏

研修会では、動作の不器用さを抱える子どもについて、課題学習や環境設定の工夫、失敗がわからないよう配慮した授業づくり、気持ちの面のサポート等について講義・演習が行われました。今回は、その一部をお知らせいたします。

手先が不器用な A くん

～Aくんの本音/Aくんのどんなことを課題とするのか～

- ・できたか、できなかったか（能力とその結果）に注目すると、できていない。
- ・周りから見れば、身体能力に差があって、手がかかる、配慮が難しい存在なのかもしれない。



本人が悩んでいることは？

- ・小さいときから、はさみで紙を切ったり、工作したり折り紙したり、いろんなことがうまくいかなかった。
- ・それだから、机に顔を伏せたり、怒ったり、逃げ出したいなってしまって、実際にそうしたこともあったよ。
- ・うまくできないのをみた先生の顔が暗くなるのも、みんなに下手な様子をみられるのもいやだった。
- ・先生から「練習したらうまくなるよ!」って言われたのも、何よりつらかったんだ。みんなみたいにできるようになりたいけれど、どうしてもできないんだ。



支援にあたって大切なこと

- ・何をすればよいか「わかって」いても、そのように「できる」とは限らないということ
- ・わかっていないと「できない」
- ・「できない」からといって、わからないとは限らないし、わざとふざけたりしているとも限らない（自分にしかわからない微妙な認識・身体感覚のずれ）
- ・「こんなこともわからんのかがんばれ!」と応援されても、すでにがんばっているのかもしれない。

「できたか、できなかったか」の結果に注目するか、気持ちに注目するかで関わり方が変わってくることが話題に挙がりました。

◎今後も、研修会や訪問支援を通していただいたアドバイスについて、地域支援部通信を通してお知らせいたします。